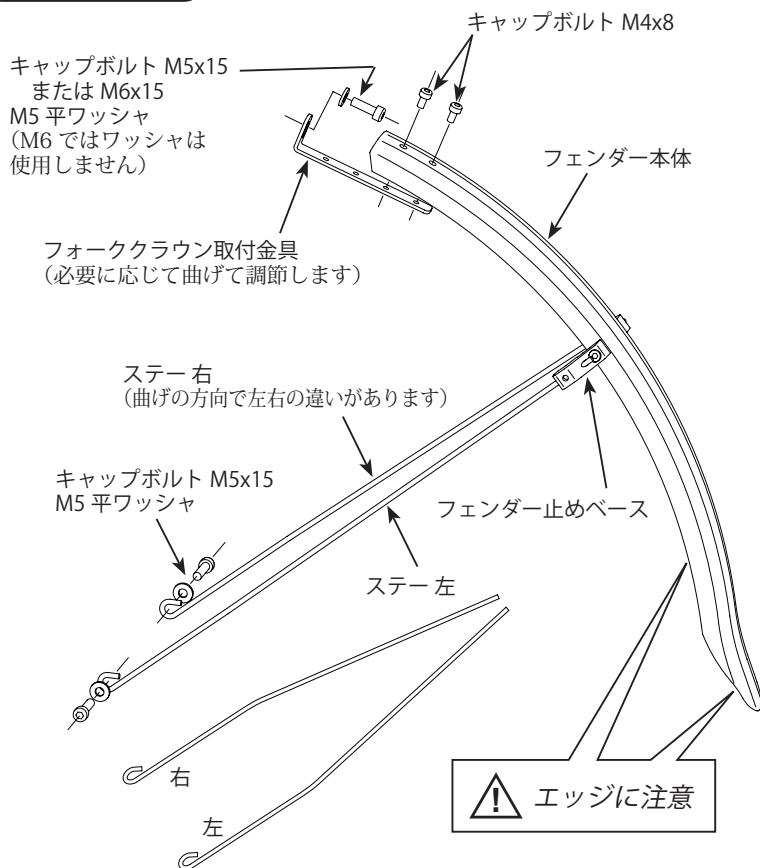


フロント用

「KODACHI / 小太刀」は、DYK シリーズのショートサイズ版として開発された自転車用フェンダー（泥除け）です。

一般的なフェンダーは再資源化が難しい樹脂素材でできたものが多い中で、DYK シリーズはリサイクルが容易な素材のみを使用した環境にやさしいモデルです。

部品明細



適合ホイールサイズ

26 ～ 28 インチ または 650c ～ 700c

フェンダー幅

50 ミリ (これより太いタイヤには適合しません)

内容一覧

<本体側>

フェンダー本体	・・・ 1
ステー (右)	・・・ 1
ステー (左)	・・・ 1
フェンダー止めベース、受け板、ホーロー セットボルト M4x3	・・・ 2
キャップボルト M4x10	・・・ 2

<袋部品 1>

フォーククラウン取付金具	・・・ 1
キャップボルト M4x8	・・・ 2
キャップボルト M5x15	・・・ 3
キャップボルト M6x15	・・・ 1
M5 平ワッシャ	・・・ 3

<袋部品 2>

2 ミリ六角レンチ (M4 ホーロー用)	
3 ミリ六角レンチ (M4 キャップボルト用)	
4 ミリ六角レンチ (M5 キャップボルト用)	

※ M6 キャップボルト用の六角レンチは
同梱されておりません。

装着および使用上の注意

- 本商品は回転する車輪のすぐ近くに装着する部品となりますので、正しい装着がされていないと、走行中に車輪に巻き込んだりして大変危険です。
本商品の装着は、自転車に関する整備上の一般的な知識および技能を有する方（販売店や整備業者）が行なうことを前提としています。必ずそれらの方に装着を依頼してください。
それ以外の方が装着を行なった場合の不具合や被った損害等については弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご承知おきください。
- 走行前には必ず、本商品が確実に固定されていることを確認してください。
- 本商品が車体もしくは乗り手など（特につま先）に当たらないことを確認し、また本商品がハンドル操作を損なわないことを確認してください。
- ハンドルにぶら下げたままのバッグ等が当たったり走行中にフェンダーを足で押したりすると、フェンダーが変形し意図せず車輪に巻き込まれたりするので危険です。おやめください。
- ステアの長さを調節するため先端をカットする際は適切な工具を使用して行なってください。ニッパーやペンチでは切れません。クリッパーの使用をお勧めします。
- 先端は切りっぱなしでは尖っていて非常に危険ですので、必ず削って安全に丸めてください。
作業は平ヤスリでは材質的に困難なので、ステア単体にしてグラインダーを使用することをお勧めします。
- 使用中にもし異常を感じた場合はすぐに使用を中止して、装着を行なった整備士にご相談ください。
- 必ずしもすべての自転車に装着可能というわけではありません。車体によっては装着できない場合もあります。

取り付け方

- ① 先にフォーククラウン取付金具を前フォークに止めます。
もしキャップボルト M5x15 や M6x15 だけでは止められない場合は、別途長いボルトとナットを用意してフォーククラウンを前から貫通させる形で止めます。
その際は平ワッシャや ナットは別途用意してください。

次にフェンダーをキャップボルト M4x8 2 本で金具に止めます。

- ② フェンダーの縁をフェンダー止めベースとフェンダー止め受け板とで挟み込んでから、キャップボルト M4x10 を締め込んで保持します。

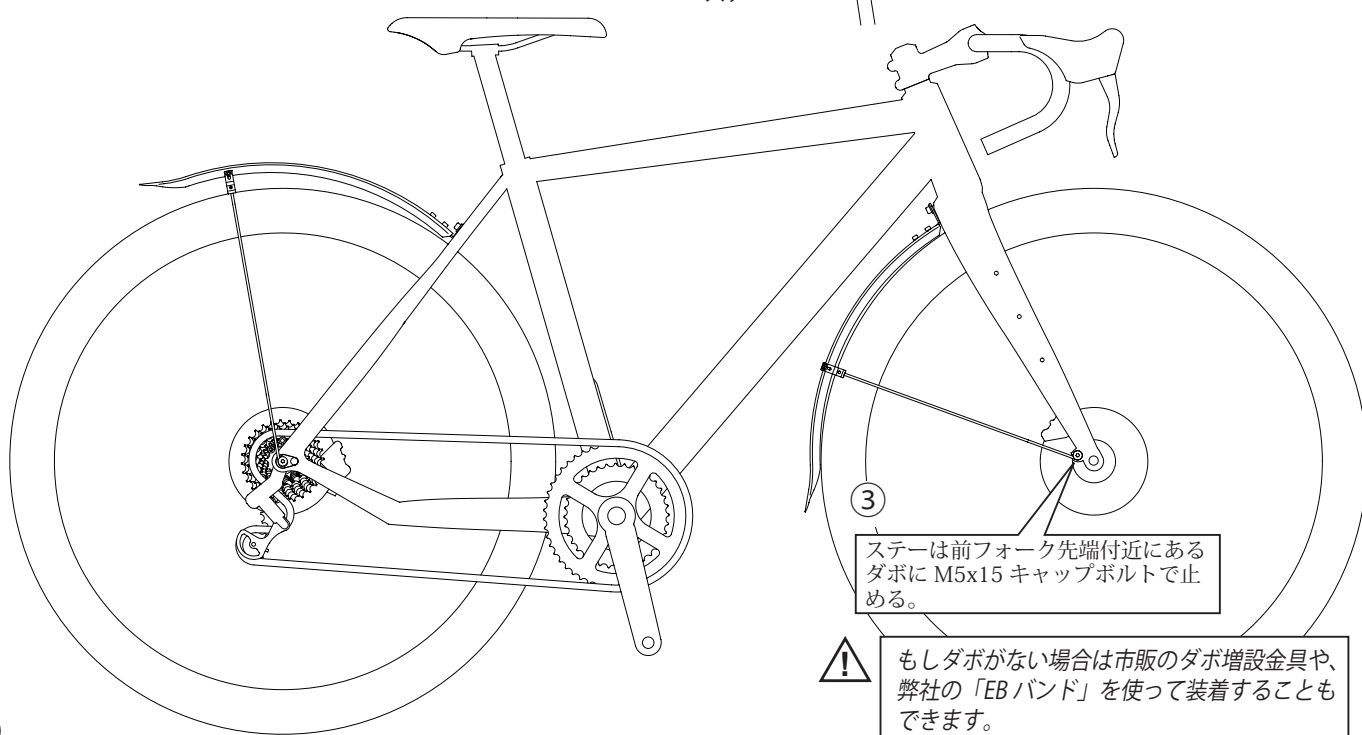
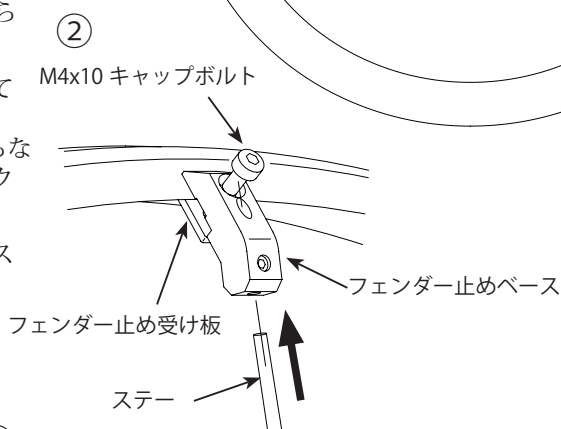
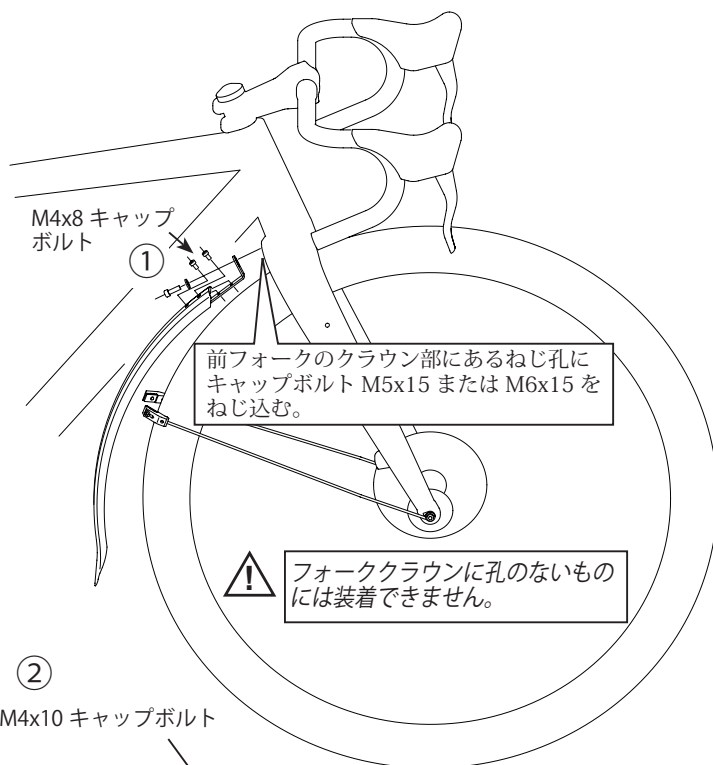
ステーをフェンダー止めベース下側の孔から挿し込みます。

- ③ ステーの根本部をキャップボルト M5x15 で前フォーク部のダボ孔に止めます。

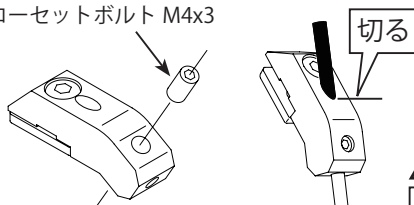
- ④ フェンダーとタイヤとの間隔が適切になるようにステーの長さを決め、ホーローセットボルト M4x3 を締めて横からステーを押さえる形で保持します。

このときステー先端がフェンダー止め金具から飛び出していると危険なので、先端はできるだけ短くカットします。少なくとも M4x10 キャップボルトを回すのに邪魔にならない程度の長さにし、カットラインを油性ペンなどでマークします。

ステーを装着したままだと作業が困難なため、いったんステーだけを抜き、カットと研磨をしたあと再び戻します。



- ④
- ホーローセットボルト M4x3



フェンダーやベースは決してタイヤと接触させないように位置決めしてください。
フェンダーが走行中に車輪に巻き付くと、急制動がかかったことになり前転してしまうなど非常に危険になります。



カットしただけでは先端が尖っていて危険ですので、安全のため削って滑らかにします。
ただし材質（ステンレス）的にやすりでは難しいので、グラインダーの使用をお勧めします。